

## ニ ュ ー ス

第 20 回国際昆虫学会議  
イタリア・フィレンツェ大会

1996年8月25日～31日の間、フィレンツェの“Palazzo dei Congressi”で標記の会議が開催される。24の分科会の中のセクション14、養蜂学と養蚕学で、ドイツのKoeniger博士が主催する「ミツバチ属の生殖機構」、イタリアのManino博士とアメリカのSheppard博士が主催する「ミツバチ属の種内変異」のワークショップが予定されている。

詳細連絡先は、Organizing Secretariat, ICE Via A. La Marmorata, 24, 50121 Firenze, Italy. Fax +39-55-5001912

## 第 35 回国際養蜂会議

本年8月開催された第34回ローザンヌ大会に続き、次回第35回大会は2年後の1997年9月1日～6日の間、ベルギー・アントワープの“Congress Centre Zoo”で開催される。

また1999年の36回大会はカナダ・バンクーバー、2001年の37回大会は南アフリカでの開催が決定した。

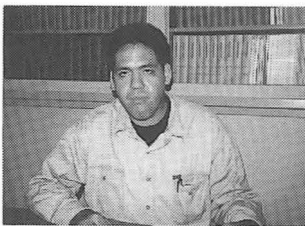
## 玉川大学ミツバチ科学研究施設から

## 日本プロポリス協議会セミナー

日本プロポリス協議会主催による平成7年度秋のセミナーが9月20日に湯河原温泉ホテル観山で開催された。大学院修士課程の大澤華代さんは「HPLCによるプロポリス成分の分析とその変化」、松香光夫教授は「ミツバチ科学研究施設の近況」について講演を行った。

## キューバから留学生

日本政府奨学金留学生としてキューバ農業省養蜂研究センター研究員のマリオ・カガワ(Mario Kagawa)氏が1995年10月1日に来学。1997年3月までの1年半の間、農学部食品製造化学研究室の研究生としてプロポリスの成分分析に関する研究を行う。



キューバのカガワ氏

## ミツバチに関する報道、放映

小野正人講師はニホンミツバチが集団でオオスメバチを熱殺する防衛行動にフェロモンが関与していることを英科学誌「ネイチャー」に発表。その内容の記事が1995年9月28日、朝日新聞夕刊、産経新聞その他に掲載された。

1995年10月2日、北海道新聞、ふしぎ不思議の欄で、吉田忠晴助教授による「ミツバチの巣なぜ六角形」と題した記事が掲載された。

1995年9月13日に「楽な仕事はありません!?ミツバチの社会は分業制」と題して、NHKのハイビジョン番組「どきどきウォッチング」で放映された。吉田忠晴助教授が出演した。

## 編集後記

クマとハチミツはポスターや切手のデザインとして目にするが、米田・米田氏にはクマが生息する環境と養蜂は共存できるはずとの視点からの玉稿を受けた。京都大学の井上・井上氏には、近畿作物・育種研究に発表された南紀の伝統養蜂について新たに執筆、寄稿していただいた。(株)セラリカNODAのミツロウ、中野氏ほかのプロポリスの寄稿にお礼申しあげる。アピモンディア報告で述べたが、絵はがき「アジアのミツバチ」の写真部門、銀メダル受賞は感激であった。(忠)